数学教室の現在

令和 5 年度数学・数理解析専攻専攻長
加藤周

令和 5 年 10 月 1 日現在の数学教室構成員は助教 9 名 (+ 特定助教等 5 名)、講師 1 名、准教授 17 名、教授 18 名 (+ 理事 1 名 + 国際高等教育院併任教授 1 名) となっています。また、学生の状況は学部学生の配属者数 139 名、修士課程在籍者数 93 名、博士課程在籍者数 35 名となっています。なお、学生に関しましては近年の学部の数学系人気は継続しており、令和 4 年度末にも系登録試験が行われました。

数学教室の直近のトピックとしまして主なものはふたつあります。ひとつめは理学研究科全体の計画と歩調を合わせる形で女性構成員の増加策を施行し、それにより結果として 4 名 (+ 特定教員 1 名) の女性教員をお迎えしたことです。引き続いて今後は教員に加え女子学生を増やす施策も取る予定です。もう一つは資源価格高騰などに伴う電気料金の高騰です。こちらは教室の運営費の 2 年前比での 15% 程度の大きな削減という形で影響しています。

また、近年長年に渡り数学教室で活躍された梅田亨先生 (2020 年度) および塩田隆比呂先生 (2022 年度) が定年退職され、浅岡正幸先生 (2020 年度)、岸本大祐先生 (2021 年度)、矢野孝次先生 (2022 年度)、カレル・シュワドレンカ先生 (2023 年度) が教授への昇任に伴い転出されました。それ以外に荒野先生、平野先生、森田先生、大場先生の 4 名の助教が昇任に伴い転出されました。

同時期に、前川泰則 (2019 年度)、加藤周 (2019 年度)、葉廣和夫 (2020 年度)、藤野修 (2021 年度)、Benoit Collins(2021 年度)、塚本真輝 (2022 年度)、清水扇丈 (2023 年度) の 7 名を教授にお迎えし、窪田陽介、桑垣樹、高棹圭介、田中亮吉、筒井容平、山下真由子、劉逸侃、渡邉忠之の 8 名の教員を准教授にお迎えしたほか、梶原唯加、河上龍郎、日下部佑太、鈴木美裕、曽我部太郎、谷口正樹の 6 名の教員を助教としてお迎えしました。

数学教室構成員の近年の受賞として目覚ましいもののひとつとして山下真由子先生のマリアム・ミルザハニ・ニューフロンティア賞受賞 (他にもアジアの科学者 100 人、羽ばたく女性研究者賞最優秀賞なども受賞) が挙げられます。他の大きな受賞としては Benoit Collins 先生 (数学会秋季賞、日本学術振興会賞)、尾高悠志先生 (数学会春季賞、日本学術振興会賞)、前川泰則先生 (数学会春季賞、日本学術振興会賞)、藤野修先生 (大阪科学賞、代数学賞) などがあります。さらにそれに加えて構成員の中から 3 人の建部賞受賞者を輩出したほか、JSIAM および JMSJ 論文賞、現象数理学三村賞、数学会出版賞などを受賞

した構成員がいます (厳密には数学会出版賞は梅田先生で、定年退職後です)。

構成員ではなく卒業生ということでは、望月拓郎先生が 2022 年にブレイクスルー賞 (数学) を受賞されたことが最大のものになります。これは比較的新しい賞ですが、賞金 3 億円でノーベル賞に匹敵する賞となります。

また、受賞ではありませんが 2022 年の国際数学者会議 (ICM2022) においては数学教室構成員から 4 名の招待講演者が選出されました (京都大学全体では数理研からの 1 名を併せて 5 名の選出となりました)。

数学教室の現状に関しての自己診断としては各分野において優秀な先生を採用することができているように思います。一方でその将来につきましては運営予算が漸減する中で使途制限付きの競争的資金などを当てにする部分があり、教室が自らのミッションを自主的に制定して進もうと考えると心許ない部分もあります。もし同窓会の皆様のご協力もお願いできればありがたいと思います。